

研修資料

平成 28 年度「ふるさと支援隊」支援要領 (H28.7.2)

1 目的

大東文化大学生の持つ行動力、知識や新しい視点についての加工品開発に向けた支援など。

2 事業主体

大東文化大学国際関係学部

3 支援期間

平成 27 年 4 月～平成 30 年 3 月末

4 支援内容

播種への準備作業から収穫作業までの技術支援

5 大豆栽培の農作業手順について

①大豆栽培に適した土壌条件

最適 pH 微酸性 6.0～6.5 大豆・枝豆など

(平成 28 年 6 月 12 日 午前 9 時 5 点の地点を計測しその平均値 pH4.6 程度)

現地の土壌条件としては、盛土で黒土系と見える

苦土石灰を 10 a 当たり 40 kg 全面散布する。前作によっても条件が異なる

※豊かな実りは土づくりが決め手

- ・一般的にはハウレンソウ 中性で生育 6.5～7.0 程度
- ・水稲・キャベツ・大根 弱酸性 5.5～6.5 程度
- ・お茶 酸性 5.0～5.5 程度

②作業手順(なにから始めるか)

畑作り・耕耘→播種・施肥→除草→中耕・培土→病虫害防除→収穫刈取り→乾燥→脱穀
→選別

※耕耘は細かくなるように丁寧なすること

③播種

品種

主として宇宙大豆を予定している

他には品種としては・鳩山在来(黒大豆)・青山在来・丹波黒豆などを

播種の時期

品種によって多少播種時期が異なる(埼玉県の奨励品種のエンレイ、タチナガハなどは 6 月下旬～7 月上旬)

畝幅と株間

株間 15 cm程度(種と種の間)・畝間 70~80 cm程度(生育途中で中耕管理機を使用するので畝幅を考慮し播種する)

肥料

化成肥料 10 a 当たり 20 kg程度(大豆は根粒窒素固定能力が高い・前作物によっては残肥もあり散布量については考慮する必要あり)

追肥

必要に応じ適宜する

種子の準備

病害中に罹っていないもの

ハトなどの食害対策

発芽途中での食害対策が必要である。特に野兎など要注意

雑草対策

播種後除草剤を全面散布 薬剤としてはラッソー乳剤、ロロックスの混合剤

※播種適期が梅雨と重なり湿害があり、苗立ちがうまくいけば、その大豆作りは半分以上成功したと言える位重要な作業である

④生育中の管理

中耕

目的は畝間の除草

培土の目的

倒伏防止・排水

病虫害の防除

病虫害防除は圃場をよく観察し発生状況に応じて適宜行う。天候不順により年ごとに病虫害の発生が異なることが多い

(基本的には常に圃場を観察し、捕殺することが望ましい)

雑草の除去

コンバイン収穫における収穫ロス、収穫量と品質を低下する

※日常の観察が大事である

⑤収穫

刈取りの適期

茎が十分乾いてから、茎が「ポキッ」折れるくらいになってから

刈取りの方法

剪定バサミ

乾燥

しまだて方式

取り込み

しまだてた大豆を適当な大きさに梱包して脱穀場所へ移動
(素縄を使用すると便利)

※葉が落葉し、大豆の莢が大部分変色し、茎全体が乾燥 させることが大事

⑥脱穀

方法

昔ながらの方法でクルリ棒などを使用して

※地域で使用していた道具などを使用しての脱穀作業

⑦選別

機械選別

唐箕・目の粗い大豆専用フルイなどを使用

手選別

一粒一粒目視で選り分ける

⑧枝豆

枝豆については、熟期の状況により適宜収穫対応する

えだ豆ジュース・えだ豆パンなどの加工品へのチャレンジ

※まとめとして

- 1 元気づく農業を目指したい
- 2 地域が参画できる企業とのタイアップ
- 3 地域としての話題作りと夢のある農業を目指し楽しく
- 4 遊農で人生長く楽しく所得を・・・
- 5 大学としての活動内容の3柱に向け支援していく